

修学旅行によせて

教頭 尾形 恭介

本校は、平成2年から北海道の自然体験を主とした修学旅行を実施しています。北海道は、温暖な気候と日本一小さな県で育った私たちにとって、雄大な自然や歴史、豊富な食材など、想像するだけでもワクワクする魅力的なところです。

私をはじめ北海道の地を訪れたのは教員になってからで、テニス部の生徒を引率して札幌で開かれたインターハイに出場した時でした。その時の北海道の印象は強烈で今でもよく憶えています。いちばん印象に残っているのが広い大地と気候の違いです。

8月初旬、うだるような暑さの中高松を出発し札幌の空港に降り立ったとき、温度は20度。涼しさを通り越して寒かったことに一抹の不安を感じました。はたして、その不安は的中し大会期間中は木枯らしが吹き初冬のような寒さの中、私は簡易ビニールレインコートを着込んで監督席でガタガタ震えながら試合を見ていました。この時の体験から、私は数々のことを学びました。何をするにも一番大切なことはできる限りの情報収集。そして様々な場면을シミュレーションすることの重要性です。その後、試合や修学旅行で何度も北海道を訪れましたが、この時の苦い経験を生かし万全の準備で北海道の魅力を楽しんでいます。

皆さんも、私の失敗談を参考に今回修学旅行で訪れる世界遺産「知床」や旭山動物園など北海道の魅力を十分満喫できるよう、自分たちのグループ研修やコースの予習など万全の準備をして下さい。また、気候の違いを甘く見ないで、楽しい修学旅行ができるよう気を引き締めて行きましょう。